

令和 6 年

文教厚生常任委員会記録

令和 6 年 7 月 9 日

東伊豆町議会

文教厚生常任委員会記録

令和6年7月9日（火）午後1時30分開会

出席委員（6名）

1番	山田豪彦君	3番	楠山節雄君
6番	稲葉義仁君	8番	西塚孝男君
10番	須佐衛君	14番	山田直志君

欠席委員（なし）

当局出席者（6名）

健康づくり 課長	山田義則君	健康づくり課 参事	柴田美保子君
健康づくり 課長補佐兼 介護係長兼 地域包括支援 センター長	雲野信弘君	健康づくり課 健康増進係長	前田宇之君
健康づくり 地域包括支援 センター係長	梅原美香君	健康づくり課 地域包括支援 センター係長	宮原崇敏君

議会事務局

議会事務局長	村木善幸君	書記	榊原大太君
--------	-------	----	-------

開会 午後 1時30分

○委員長（西塚孝男君） 本日は、先日に続き、健康づくり課の当局の皆様には本委員会に出席いただき、ありがとうございます。

ただいまの出席委員は6名で、委員定数の半数に達しております。よって、文教厚生常任委員会は成立しましたので、開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

議題の第1点目、高齢者福祉についてを議題といたします。

地域包括のほうのお話をしたいということで、お話ししてもらえばありがたいですけども。

暫時休憩。

休憩 午後 1時31分

再開 午後 1時32分

○委員長（西塚孝男君） 休憩を閉じ再開いたします。

○健康づくり課地域包括支援センター係（宮原崇敏君） 地域包括支援センターの今の現状をお話をさせていただきます。

昨年度の相談件数なんですけれども、トータルで2,054件ですね。こちらのほうなんですけれども、昨年度に比べては減少しています。主に一番多い相談件数というのは、やはり介護保険とか福祉サービスの事業ですね。やはり御家族や身寄りのない人が、病院のほうから相談が来たりして、介護サービスにつなげるといったことも多いですし、最近もう一つ多いのが、成年後見制度ですね。この類いの相談がここ数年は増えてきておまして、昨年度は248件ですね。成年後見制度と、あと高齢者虐待と権利擁護の相談、そういったものが増えてきています。それらのほうに、総合相談業務と権利擁護業務ということで、こちらは私のほうで中心となって対応させてもらっています。

課題についてなんですけれども、どちらかというと業務が多忙というところよりも、一つ私が最近、やはりこの業務に接していると思うことが、以前であれば、御家族や本人さんが望

んで包括に相談してくる。それで物事って、結構スムーズに解決するということが多かったんですけれども、最近やはり多くなっている相談というのは、家族や本人よりも周りの人が気がついて、いや、この家ちょっと、この旦那さん、認知症進んできたよとか、この奥さん、最近ちょっと姿見ないけれども、様子見に行ってくれないかなとか、そういった相談が多くなってきています。

そういったところで、周りの人や私たちが訪問して、この人、介護を受けたほうがいいのかな、認知症が進んでいるのであれば専門の病院にかかったほうがいいのかな、そういった感じで、御本人さんたちにも説明する、御家族さんにも説明するんですけれども、なかなかアドバイスを聞いても、そのとおりに動かない。やはり自分の生活は自分で考えて送りたいから、あなたたちの言うことは別に関係ないみたいな感じになりまして、結局相談が前に進まない、時間がかかるということも多くなっているという状況です。

そのようなことが今後起きることを少なくするためにも、この前お話ししたこの終活ノートを活用ですね。やはり自分のこれからのこと、これは私たちにとっても、20年後、30年後の問題になります。自分で考えて、自分でやはり周りに意思表示していかなければならないと思いますので、このような、やはりこれからの自分のライフプランというものを自分で考えてもらうということ、自分で周りに伝えるということ、伝えるツールとして終活ノートも作らせてもらいましたけれども、さらにこれを皆さんに広めて、きっかけづくりにしたいなと思っていますので、また皆さんも御協力のほう、よろしくお願いいたします。

以上になります。

○3番(楠山節雄君) 宮原君、相談件数2,054件で、減っているという話だったではないですか。前にはよくマンションだとか、いろいろなところの自治会回り、自治会というかそういうところに、管理組合みたいなどころに行って、いろいろやはり対策を講じてきた。それが独自で結構できるようになったよとかとあって、そういう件数も減っているのかなと思うんですけども、この辺、何か件数減少の要因みたいなものが何かあるのかなということと、というのは、介護だとかいろいろなこと、福祉というのは高齢化になって、どんどん増える一方かななんて思っていた中、その辺が減少するという、そのこの辺の部分が何かあるのかなということと、あと終活ノート、私も頂いて、まだ何も作っていないんですけれども、結構配布件数というのは、この前聞いたときに、一千何件で既に多いではないですか。こういうものは、たまたま私は広報ひがしいずを見ているから確認ができたんですけども、まだそういう必要のあるような人たちに、やはり周知というか広めていかなければならないなと本当

に今おっしゃるとおり、なかなか物事が進まない中で、こういうものというのをあらかじめ作って準備をしていくという、その考え方、すごい大切だと思うんだけど、この辺は、広報だとか周知の仕方というのは、広報紙だけではなくて、いろいろ活動していく中、例えば老人を集めるときだとか、老人はもう既に対象だけれども、その前の、例えばもう少し若い人たちの集まりのときに、こういう制度があつて、こういうものを作っておいたほうがいいですよという、そういう投げかけだとかというものもできるのかなと思ったんだけど、そういう考え方というのはどんなかなと思って。

○健康づくり課地域包括支援センター係（宮原崇敏君） まず、楠山委員さんおっしゃった1点目の減少の要因というところなんですけれども、マンションと別荘地の相談なども少々減少傾向にあります。その要因としては、お話あつたとおり、マンションとか管理組合、管理会社さんともネットワーク構築が、ここ数年かけて行われたということで、特にマンションについては、自分の問題は自分で解決するというのが少しずつ浸透し始めてきたのかなという印象で、その部分で、減少の要因の一因ではあるかなとは考えております。

もう一点、終活ノートの普及方法についてなんですけれども、皆さんに6月の広報で、配布していますという情報を流しましたが、それ以外に昨年度から、各、今は健康教室とか町の趣味講座とかに参加して、終活ノート活用講座というのも行っております。

今年度につきましては、下半期に一般町民向けの終活ノート活用講座を開催する計画をさせてもらっていますので、教室参加者だけではなく、一般の町民の方も気軽に参加して終活ノートを手にできるような、そういったことも考えているところです。

以上になります。

○3番（楠山節雄君） ありがとうございます。

○委員長（西塚孝男君） ほかに何か。

○14番（山田直志君） 一番やはり、お年寄りの方なんかの窓口になっていると思うんです、地域包括はね。そこでの相談の中で、やはりボトムアップして、町として政策化したほうがいいような課題とかはないのかなというのが一つと、あと、この間の説明のときから気になっているんだけど、やはり周りの人からいろいろな人が言われてくるというのは、そういう体制をつくってきたから、それはそれで利いているということはいいわけだけれども、しかし、これについていえば、成年後見とか何かでない限り、なかなかその人の決定に立ち至れないので、非常に手間かかるのかなというふうに思ったりするんですけど、実際にはその辺は、どの程度手をかけていらっしゃるでしょうか。

○健康づくり課地域包括支援センター係（宮原崇敏君） 一つ、この地域包括支援センターの仕事の中で、特に私が心がけてきたのは、やはり周りの支援者を増やすということなんです。先ほど山田委員さんが言った周りの見守りのところについては、いろいろなところから情報提供が来るんですけども、もう一方で、完全ではないんですけども、やはり本人さんが一番言うことを聞く人、前回の常任委員会で山田委員さん、背中を押してくれる人というのがなかなか少ないという話があったんですけども、その方たちをまた周りの中で見つけて、協力を得ていくということも併せてやっていきましたので、私たちが手をかけるというよりも、そういった周りの人を私たちが把握して、一緒に考えてやっていくということがこれからも大事であり、また、引き続き取り組んでいきたいなと思っているところであります。

以上になります。

○14番（山田直志君） そうすると、お一人お一人の方もいらっしゃる半面、やはり結構、ケアマネとかいろいろな方との情報共有というのを日頃からしていることで、今言われたような言及力のある方々を発見し、その方と一緒にやっていくというような体制が取られているというふうに見えていいわけですか。

○健康づくり課地域包括支援センター係（宮原崇敏君） そのとおりです。

○委員長（西塚孝男君） ほかに。

○6番（稲葉義仁君） 以前から何度か質問、何回もしてきて、相変わらず自分の中でも整理がしきれないところで、多分、宮原さんに質問しても違うかなという気もするんですけども、お話を聞いていて、やはり必然的にこの辺の高齢者の対策になると、関係各部署との連携というのが、いろいろな意味合いで出てきますよね。見つけるときもそうだし、見つけた後の対応にしても。

どうしても、抱えている問題が一つではないだけに、いろいろなところと関わっていると形になると、やはり、包括って何だろうな、全体でコントロールする人と係、全体の調整を見ながらコントロールするところと、逆に言うと、窓口となって受けるところが、現実両方やりながら、していただいているんですけども、そこって何か、でも、どうも自分の中で、なかなか厳しいなと思ってしまうんですけども、どうでしょうね。何かいい切り分けというか、別にこれは、そうしろという意味ではなくて、整理の仕方こういう形もあるよねという、何かあるのかなと。

○健康づくり課地域包括支援センター係（梅原美香君） コントロールという意味が、ちよっ

とごめんなさい、よく分からないんですけども、包括として誰かをコントロールする必要がないので、コントロールをする人というイメージが全くないんですけども。

○6番（稲葉義仁君） ごめんなさいね、言葉の使い方を間違えました。コントロールをするというのではなくて、地域包括支援センターという窓口としての……いや、ちょっと考えてみます。

自分がやっているとして考えたとして……休憩してもらっていいですか。

○委員長（西塚孝男君） 暫時休憩。

休憩 午後 1時47分

再開 午後 2時14分

○委員長（西塚孝男君） 休憩を閉じ再開いたします。

ほかに何か聞きたいことはありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（西塚孝男君） ないようでしたら、以上で健康増進係のほうにいきたいと思います。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 高齢者福祉に関するということで、健康増進係の健康増進事業の課題についてということで説明したいと思います。

今、健康増進事業として実施しています介護予防事業の教室は、参加している方が約150人程度となっており、65歳以上の人口に対して4%という数値となっております。また、参加者の構成が、4分の3がリピーターで、新規が4分の1程度という状況です。そういったことから、現在の教室型の介護予防事業では、参加者の裾野を広げることに限界を感じております。

また、教室の個々の評価については、今まで、今年度、旧健康増進係と保健予防係が合わさったということで人員が増えておりますが、今まで健康増進係の体制では、評価を実施する余裕がなかったということでしたので、今後、町として介護予防事業をどう進めていくのか、専門のスタッフを交えて評価できたらというふうに今考えております。

以上です。

○委員長（西塚孝男君） どうですか、今の話を。

○6番（稲葉義仁君） 介護予防事業、4分の3がリピーターで、なかなか新しい人が増えな

い、そのとおりだと思うんですけども、一方でその事業が、そこに出ているから健康の維持ができていた部分であったり、それなりに評価されてきたのがあると思うんです。

先日の一般質問の話でも、この話は副町長とさせていただきましたけれども、既存の事業はきちんと今までどおりやって、ノウハウを積んだ上で、新規の部分についてはまたいろいろ考えていきたいということだったんですけども、その中で、今、専門のスタッフによる評価という話がありましたよね。これ、具体的にどういうことがありますか。

○健康づくり課地域包括支援センター係（梅原美香君） 今ちょっと検討しているのが、今年度、理学療法士と作業療法士を呼んでの評価会議ということで、私の持っている事業も含めて、介護予防の事業を一つ一つ見直して、今後町としての、どういうふうに方向性をやっていったらいいかというアドバイスをいただくことを検討しています。

○6番（稲葉義仁君） あと、一応聞いておきますけれども、急に簡単な話になってしまう。

さんざん話をしている、一緒になってくっついて、結局1名減で、既存の教室も含め、大丈夫みたいな質問をさせていただいて、副町長も含め、うん大丈夫、そこは心配しないでという力強いお言葉をいただいたんですが、現状、4月から3か月ぐらいか、問題なく回っておりますでしょうか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 実質1人減ってはいますけれども、資格を持った会計年度任用職員を雇うこともできたということで、お互い、元の保健予防係の職員の手助けをしながら何とかやっています、今。

それと、先ほども、事業の中身を見直してというようなことも発言させていただきましたが、事業のやり方自体、人と人との関わりのある教室ですので、全てが効率的という言葉がどうかとは思いますが、事務的な部分は、専門的でない会計年度任用職員でもやれる部分はたくさんあるかと思っておりますので、そういった専門職がやらなければいけないことと、事務の方にやっていただける、むしろ事務の方にやっていただいたほうが効率的になるということもあろうかと思っておりますので、そのすみ分けをやりながら、教室の見直しというの、2つ併せてやっていけたらなと思っております。

○6番（稲葉義仁君） なかなか、決して人数に、こちらにも余裕があるというわけではない中で、既存の事業をきちんと生かしながら、新しいことにも少し目を向けてというのは、なかなか大変だとは思いますが、やっていることはすごく、多分、町民からも評価されていることであると思うし、先ほどもありましたけれども、できる部分は別の事務的な方に任せてというのも含めて、やっていただければなんて思います。

全然関係ないんですけども、うちの親父も健康づくり生き生き何とか教室に、最近楽しく通うようになっております。よろしく願いいたします。

○3番（楠山節雄君） 新しい取組だとか課題だとかがどんどん出てくる中で、私がやはり一番心配なのは、新しいものを取組をするということになると、仕事が新たに発生するわけではないですか。捨てるものがなければどんどん広がって、やはり一番心配しているのは、職員の健康状態だと思うんですよ。だから、その辺なかなか難しい部分もあると思うんですよ。

本当に高齢化社会に突入して、大体やる仕事というのはどんどん進める、その中で、捨てるものと新しく取り組まなければならないもの、その見極めをちゃんとしっかりとやらないと、やはり職員が潰れるようなことというのはあってはならないことだろうから、その辺の気配りとか目配りというのは、やはりトップである課長にはぜひお願いをしたいなと思います。

○健康づくり課長（山田義則君） ありがとうございます。

そうですね。いろいろな業務が増えていく中で、捨てる業務というのが非常に重要になってくると思います。

あと、連携ですね。うちで無理なことであれば、ほかの課でやれないのかなということも、トップのほうと相談させてもらったりして、そこら辺の仕分け的なものは、今絶えずやっている状況で、今回、一体化の関係とかで、どちらかという旧健康増進が、人も替わらず、若干ブラックボックス化されていて、ほかの人間がそこに関わることとか、兼職とか、あまりそれができなかったのが、今回一体化の中で、各職員が定期会議、月一ぐらいやっているんですかね。それで、事業の見直しが絶対必要だよなということになった中で、こういう今まで、今参事が言われたもの、見直しの提案、それに関しては、包括のほうは地域リハの先生とかに相談した中で、検証に対して参加してもいいよという了解も得たものから、では外部評価ということで、この際1回、ちょっとやってみようかということで、今年秋口にもやるということが決定しているもので、それをやりつつ、だから事業の見直しをして、削るところは削って、絶えずちょっと変えていって、職員負担を減らしていくというような感じでやっていきたい。実際そういう形で進めるようなことを今やっているということで、そこら辺については期待していただきたいと思います。

○3番（楠山節雄君） 事業の見直し、それは現場のサイドで感じて、やはりやっていくべきだというふうに思っているんだけど、一つの考え方として、現場でできるサイドではぜひやってもらいたいと思うんだけど、こういうものというのは、先進事例というのがど

んどんと出てくるから、これはかえって、そういう先進事例が出てくれば、負担もなくそこに移行できるという、その部分もあるのではないかなと思うから、何でもかんでも東伊豆町が一番にいなければならないという、そんな考え方より、やはり職員の負担なんかを考えると、二番煎じだとか三番煎じで私は十分だと思うんだよ、やはり。そうしていかないと、仕事がどんどん増える一方の中で、あっちもこっちもとやったら、とても本当に職員もたない状況が考えられるから、どっちかという、先進事例が出たら、ではいいから、これ取り組みましょうという。そうすると、やっていたことをぱっと受け入れるという、その部分で、負担がやはり少し軽減されるということにもつながっていくと思うから、そういうやり方も一つかなというふうに私は思いました。

○健康づくり課長（山田義則君） ありがとうございます。

自分が一番大切にしているのは、とにかく職員の話聞いて、事業が新たに新規事業が増えた場合とか、いろいろ改正があつて、ちょっと変えなければならないことがあつて、まず職員の意見を聞いた中で、足りなければ、やはり町長、副町長、総務課長に相談するような形で、できるだけストレスを内側にため込まないような雰囲気づくりには努めていますので、そういうことをやっています。

○3番（楠山節雄君） よろしくお願ひします。

○6番（稲葉義仁君） ごめんなさい、どういう教室か、教室の種類がいっぱいあつて、分からなくなってしまったんですけれども、健康づくりとかで、いろいろなところで1年間やったものを、結構次の年から、では自主的に頑張つてねみたいで動かしている感じであつたのではないですか。あれってまだあんな感じですよ。

○健康づくり課地域包括支援センター係（梅原美香君） 今もやっています。基本的には1年で卒業して、帰還して、OB会でやつて、OB会に今入れないちょっと大変な人とか、物忘れが出てきた人は、B型といて、ボランティアさんが見るグループに入れてという組織化はちゃんとしています。それは私の一存だけです。

○6番（稲葉義仁君） 多分、そんなに全部、別に見ているわけでもないんですけれども、やはり仕組みとして比較的、この分野って、うちの町って、逆に言うと進んでいると思うんですけれどもね。すごくしっかりやっただいてるので、今の動いている方々に、自立して、きちんと動いている、健康も維持し続けてもらうという意味では、すごくいい仕組みだなと思ったの、そうやって、自立できる方には自分たちで運動してもらうというのも含めてでいくといいのではないかなと思います。

そういえば、うちの親父も、OBになってしまったと言っていた気がしたので。

○健康づくり課長（山田義則君） 今、いろいろ教室やっているんですけども、介護関係で今、全国的な流れというのが、役場のほうで今まで、教室をやります、では集まってくださいということで、いろいろな体力的な教室段階、付加がかかる段階を分けたりなんかして、いろいろな教室を差別化してやってきたというのがあるんですけども、これからの時代的な流れは、やはり高齢化が進んで、町の例えば福祉センターに来てください、役場に来てくださいというものを、大変な労力が発生するということで、今は地域のほうに回って、地域のほうで事業をやると。なおかつ地域のほうで、それを担い手、それを指導する、一緒にやる担い手を育てようということで、今うちのほうは、そういう形のスタンスで動くかなということで今検討していて、その最たるものが大川とか北川のほうでやっている教室。

一応、方向としてはそういう形で、地域のほうに出向いて、地域のほうでそういう担い手をつくってやるという形で事業を進める形で、今取り組んでいる状況です。

○14番（山田直志君） さっき参事が言われたように、確かに今課長も言っていたように、自分も移動支援でやっていて、結局、移動支援を使わないと来られないという人たちがいっぱい増えてきたので、今課長が言われたようなところは、確かにそうだなという部分と、ただ、移動支援の問題とかノッカルの問題にしてもそうなんだけれども、やはりこの町の中で、みんながもっと協力して暮らしやすいようにしていこうという、そういうところの気持ちの醸成というのが、まだ全体的にはうまくいっていないのではないのかなとあって、やはり本格的にそれは、子供の問題もそうなんだけれども、高齢者の移送支援であるノッカルでも何でも、やはり今までが、役場がやってくれるというところの意識から、地域の中でみんなそれを支えていこうという意識改革というのか、そこの部分は大きな意味で、なかなか個々にやっても駄目な部分はまだあるのではないのかな、もっと大きな、例えば町長が前面に出て、町民に今の状況を話をして、一緒に暮らしやすい町にしましょうよというような大きな仕掛けでないと、こっちで移動支援のことをちょこちょこっとやる、こっちで支え合う東伊豆をちょこちょこっとやるとか、こっちでノッカルとか、全部結局、最後は役場に全てお願いするのではなくて、役場もやるけれども、皆さんが集まれない中、みんなが暮らしやすいようにするためにはどうしていきましょうかというような大きな何か投げかけがないと、一つ一つが回っていかないのではないかなという、私自身はちょっとそういう不安。意識改革は、もしかしたら町民が遅れているのか、こちらの働きかけが弱いのか、ちょっとそこが、まだ考えていることと行動のギャップがあるような気がしています。

○健康づくり課長（山田義則君） ありがとうございます。

まさしくそこら辺が難しいところで、まして各地区、コミュニティ力がだんだん下がってきている中で、逆に言うと、こういうやつを利用してもらって、そういう集まれる、公民館に集まって、定期的集まって、そういう事業をやる。役場の職員というか、指導者も行きますけれども、基本的には継続性も含めて、そういう一種のボランティアというか、地区の中で完結できるような形の、ちょっとシステムづくりというか、健康づくりを通してやってみたいというか、そういう方向で進みたいなということで、今、実践を考えているところです。

○14番（山田直志君） 去年、偶然議会だよりの取材で北川へ行ったときに、北川の健康づくりだと、割と区長さんとかいろいろな方々も参加してくれながら、やはりボランティアにもなると、言われたようなイメージに近いことが行われていたかなというふうには思っているんだけど、なかなかあれが全部の区や地域に広がっていくということは、必要なんだけど、まだやはり何か足りていないんだよなというのは、北川ではすごくいい雰囲気だったというふうに思っていますけれども、なかなか各地区があそこまでいくのは、本当に大きい課題があるような気が率直に感じています。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 今、健康づくり課長が話ししていた、大川、北川で今、出前教室という形でやってはいるんですけども、まだ役場が主体というところが、どうしても否めないところなので、そこを包括支援センターの梅原さんの介護予防教室でボランティアを育成しながら、ある程度、一、二年したら卒業して、OB会でボランティアさんを中心にとというような形も、健康増進事業の教室の中でも取り入れていければ、参加する方も増え、地域でのコミュニティづくりにもなり、そこにまた若い世代の方とも交流できれば、広い意味での健康づくり、運動も含めた健康づくり事業を展開できるのではないかとこのころも今考えていますので、役場もやるけれども、みんなも一緒にというところ、山田委員おっしゃってくれたことも、行政、役場の立場でも頭に入れながら、進められたらなというふうに思っています。

参加者を少しずつ増やしていかないと間に合わないというか、そういう危機感がありますので、そこは。

まず北川、大川もそうなんですけれども、すごく熱心な地域から進めて、そこをモデルに広げていけたらなと。あと、地区に限らず小さな単位で、本当に手挙げ式で、自分たちの仲間で、例えば同級生のグループとか、卒業したPTAのお母さん方の仲間とか、そういうグループでやりたいというところに派遣していくというような仕組みもあるのかなというふう

に思っております。

○健康づくり課地域包括支援センター係（梅原美香君） さっき楠山委員が、先進事例をという話をしていたんですけれども、今の先進事例としては、町が教室をやらないことが一番先進事例になっていて、やはり地域で地域からというのが進んでいるところで、実際に賀茂郡の中でも、教室をどんどん減らしていくというのが多くなっている。

今、そういうコミュニティ的なものの体操教室の場をやっている地域が少しずつ出てきているので、そういうところからも情報共有いただきながら、ちょっとうちの町はどういうふうな形でやっていけるのかというので相談して、模索しながらちょっとやっついこうかなと思っております。

○3番（楠山節雄君） 奈良本には、奈良本を元気にする100人の会という組織があるんですよ。この前も新聞に載っていたんですけども、熱川の橋のペンキ塗りだとか、水神社ってお祭りをやるところの近くのやはり橋も汚くて、では祭りの前にきれいにしようとか、地域貢献だとか社会貢献をしたいという、そういう考え方を持っている人たちもいっぱいいると思うんですよ。

たまたま奈良本には、そういう、ほっくり隊だとか、いろいろな会もあるんですけども、100人の会というのは、その辺で特に動きをしてくれる団体ですので、そういうところに例えば、さっき言ったような教室も含めて、健康づくりの関係、何か担えないかみたいな投げかけてするのは、親方によっては、おまえ余計なこと言うなよなんて言われるかも分からないけれども、でもそういうことの仕掛けなんかも必要だと思うし、さっき言ったように、いろいろやはり地域貢献をしたいとかと考えてくれる人、今、ボランティア協会というのがある、組織があるんですけども、そこをもう少し広げていかないと、なかなか担い手まで含めていかないなということで、私の考え方は、やはり区長さんあたりだとか、区長を経験した人たちの仲間だとか、そういうところに投げていくということがいいのかななんて思ったりもするものですから、ちょっと頭の片隅に入れておいてもらって、何か機会があるときに、そんなお話をしていただければと思いますけれども。

○委員長（西塚孝男君） 10番、何かありますか。

○10番（須佐 衛君） いや、特にないです。

○委員長（西塚孝男君） どうですか。よろしいですか。それとも休憩で……

では、暫時休憩。

休憩 午後 2時40分

再開 午後 2時44分

○委員長（西塚孝男君） 休憩を閉じ再開いたします。

今日はどうも、本当に御苦労さまでした。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時44分

再開 午後 2時55分

○委員長（西塚孝男君） 休憩を閉じ再開いたします。

これからの予定を決めたいと思いますけれども、③番のことについてありますので、暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時55分

再開 午後 3時18分

○委員長（西塚孝男君） それでは、休憩を閉じ再開いたします。

休憩中に話しましたように、議題の3は1回置いておいて、議題4のケアマネジャー参考人としての現状と課題を聞くについてを、相手があることですから、相手と話し合っ、そして時間が取れたなら、そこの中での一応日程を組みまして、再開やりたいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい、お願いします」の声あり）

○委員長（西塚孝男君） 以上で文教厚生常任委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時19分